プロジェクト名：日本における情報メディアと芸術の融合に関する研究
プロジェクト代表者：井口　壽乃（教養学部・教授）

１　研究の目的と計画の実践

本研究は、戦後日本の前衛芸術家グループ「実験工房」（1951~57）のメンバーの映像作家山口勝弘と音楽家秋山邦晴の 1960 年代の活動に焦点をあて、新しい情報メディアと芸術の融合の概念がどのように形成され、日本のメディア芸術へ発展の経過を検証する目的で計画された。

本研究の背景には、国立近代美術館との共同研究「戦後の日本における芸術とテクノロジー」（科研費基盤研究（B）平成16～18年度、代表：松本）メディアアーティスト山口勝弘の所蔵するメディア・アート関連の作品画像、関連資料を調査し、デジタル・アーカイブを構築した経緯がある。その研究成果は「山口勝弘展：実験工房からテアトリーヌまで」（神奈川県立近代美術館、2006 年 2 月 4 日－3 月 26 日）の企画およびカタログ執筆、ならびに科研報告書に論文（井口壽乃「メディア・アートが生まれるとき―山口勝弘とその時代」）で成果を公表した。科研費による研究結果から、山口勝弘ほかメディア・アートの作家たちが、経済企画庁委託によるプロジェクトに関わりつつ、新しい芸術の表現領域を拡張していった事実が浮上してきた。つまり、１９７０年代～８０年代に、企業による新技術の開発（経済）と国家の文化政策に芸術家が関与し、結果的に現在みるような日本型メディア・アートをめぐる構造が確立されていったと考えられる。最先端の科学技術の開発研究と一体となった経済発展に産業界と強く結びついた芸術活動が、現在ある日本型メディア・アートの根源となっていることを突きとめた。

本研究は、芸術表現者の立場から国と地方公共団体の政策に関与し、かつ教育者（筑波大学教授）として若手芸術家の育成にも尽力した山口勝弘が所蔵する未整理の図書資料と記録映像（ビデオテープ）を分類・整理し、実際にどのような活動が行われていたのかを探求した。

２　実施した調査・研究

１）４月：山口勝弘の淡路山勝工場（アトリエ）調査し、図書・ビデオ資料を埼玉大学教養学部資料センターに搬入。

２）５月～７月：アーカイブ構築のための基礎作業（学生アルバイトによる作業）
保管された資料はおおよそ以下に分類できる。

① 1950 年代の『美術手帖』『美術批評』『レコード音楽』における実験工房のメンバー（山口勝弘、北代省三、秋山邦晴、湯浅穣二）のデザインと執筆原稿。

② コミュニケーションの手法に関する芸術的アプローチとその思考の奇跡
・1975（昭和 50）年　株式会社トータルメディア開発研究所が着手した地域開発計画調査
国土庁委託調査事業〈住民参加における地域情報システムに関する調査〉のための山口勝弘による連続講演原稿「情報空間論」、およびビデオアーティスト・中谷芙二子による「コミュニケーション論」について分析・考察を行った。

③ 1980 年代のロボット研究と芸術文化への応用に関する研究
・1981（昭和 56）年　株式会社野村工藝社が着手した科学技術庁委託調査事業〈ロボット技術の政府出展への適応に関する調査〉の調査委員・山口勝弘の貢献について、講演原稿、報告書等

から分析・考察を行った。さらに、山口勝弘著作『ロボットアヴァンギャルド』(1985) との理論上の関連について検討した。

この科学技術庁委託調査事業は、国際科学博覧会（通称つくば科学万博）において、日本の先端技術を表現する一つのメディアとして、ロボット、ロボット技術をとりあげ、国際技術博覧会の展示の種々の目的にロボットを用いることの技術的可能性を探り、国際技術博覧会の展示にロボットを利用しようとするものにとっての利用マニュアル作成を目的として行われたものであった。この調査によって万博の骨子が構築され、さらに科学万博以降のメディア・アートの傾向を決定するものであったと結論できる。

④　ＣＹＡＣ芸術とコミュニケーション・センター国際ビデオ・アート展国内委員会関連資料

３）山口勝弘氏へのインタビューの実施・・・計５回

３　研究成果と公表について

本研究の成果は、1960 年代を再検証する国内外の研究プロジェクトにおいて公表された。

１）森美術館（六本木・東京）主催の展覧会「メタボリズムの未来都市展：戦後日本・今甦る復興の夢とビジョン」(2011 年９月 17 日～2012 年１月 15 日）の関連シンポジウム　第５回「空間から環境へ：同時代のインターメディアな活動と万博」(2011 年 12 月 18 日）において、浅田彰、磯崎新、一柳慧、山口勝弘と共にパネラーとして出演し、講演原稿を美術館のＨＰ
http://moriartmuseum.cocolog-nifty.com/blog/2012/05/1-d8f1.html　に全文を公開した。

２）ニューヨーク近代美術館による『戦後日本の芸術 1945-1989』2012 年（11 月出版予定）のなかで、世界デザイン会議 1960 年（東京）の同時代のデザイン動向について執筆した。

Toshino Iguchi, The Era of the World Design Conference, Doryun Chong/ Michio Hayashi /Kenji Kajiya / Fumihiko Sumitomo ed. *Postwar Japanese Art, 1945-1989,* The Museum of Modern Art, NY, 2012 November.

４　今後の課題

当初、研究計画の段階で予定していた秋山邦晴氏の遺族へのインタビューが、日程上の問題から実現されなかった。今後、秋山邦晴氏の未亡人高橋アキ氏とのインタビューを実現させ、音楽の領域からさらなる深化をはかりたい。

また、山口勝弘らメディアアーティストが組織したグループ「アール・ジュニ (art-unis)」(1982～1988) による「ハイテクノロジー国際展」他の活動と、それに関連した産業界の動向についても調査・研究が求められる。これらの点については、来年度以降の科研費を申請し継続研究としたい。